

DV対策についての意見

納米恵美子

I 直近の課題について

①、②、③については、第104回女性に対する暴力に関する専門調査会（2月14日）の際に、事前提出意見として記した。以下は、2月14日提出意見を踏まえた追加意見。

① 通報及び保護命令の申立てが可能となる被害者の範囲の拡大（附則検討条項）

- ・ 通報の努力義務の範囲及び保護命令の申立てが可能となる被害者の範囲を拡大することについては、基本的には進めるべき。（2月14日意見）
- ・ 通報件数、保護命令の発令件数が減少傾向である理由の分析（同上）
- ・ DVの中核は、加害者による被害者の支配とコントロールにあり、その手段は身体的暴力のみとは限らない。目黒区虐待死事件の母の手記を読めば、その様態が如実にわかるはず。
- ・ 被害者の日記、録音、心身の不調による受診の診断書、支援団体への相談記録などで、挙証はできるのではないか。

② 加害者更生のための指導及び支援の在り方について（附則検討条項）

令和元年度「配偶者等からの暴力の被害者支援における危険度判定に基づく加害者対応に関する調査研究事業報告書」P35～39の通り。

- ・ 第1次予防（予防啓発教育）の促進（2月14日意見）
- ・ 第2次予防として、リスクアセスメントに基づく加害者対応（同上）
リスクアセスメント・ツール開発と妥当性検証
情報共有制度整備
リスクの度合いに応じた対応の振分け
- ・ 今年度事業の実施結果検証（同上）
- ・ 人材育成、実施体制づくりが現状では最大の課題

③ DV対応と児童虐待対応の連携

- ・ 「DV対応と児童虐待事案における配偶者暴力相談支援センターの関係機関と連携した対応について」のアンケート調査結果（R元年度 内閣府）

「DV対応と児童虐待対応の連携強化に関する調査研究」（R元年度 厚生労働省）、

「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について」（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000198645.html>

これらの資料によってDV対応と児童虐待対応の現状と課題が立体的に浮かび上がる。

- 定式化された連携支援フローがない中で、現場ではさまざまな工夫によって支援が行われていることが把握された。
- 家族全体を視野に入れたアセスメント、支援が欠かせない。

- 要保護児童対策地域協議会（要対協）が虐待対応とDV対応の連携のカギ
- DV対応側からは、人員体制の面から、要対協個別ケース検討会議参加が可能かが課題
- 要対協が適切に機能ができているのかについての検証が必要
- 母子保健分野にジェンダー視点を入れることが必要
- 妊娠前に支援のアウトリーチが必要

II 中長期的な課題(附則検討条項以外の法改正や法の運用改善が必要な課題)

④ 被害者の保護・自立支援や民間シェルターとの連携について 及び ⑤逃げられない／逃げないDV対応について

- ・ 「保護」なのか、「避難」なのか？
「被害当事者の権利保障の観点の必要性」
「被害者がその場を離れるか／とどまるかを選択できる制度設計」
第107回女性に対する暴力に関する専門調査会(7月29日)戒能民江氏プレゼンテーションより。
- ・ 被害者がその場にとどまる選択するためには、どのような制度および制度運用が必要なのか？
第2次予防として、加害者退去をデフォルト化する制度とその運用
第3次予防として、加害者を再教育プログラムに参加させる制度とその運用
- ・ 民間における新たな支援モデルの構築によって、被害者が加害者と離別することを前提とした硬直的な公的支援を変革していく可能性があるのではないか。

⑥ その他

- ・ 性的DVへの対応
DV事案における人工妊娠中絶の配偶者同意を不要に
配偶者間の性犯罪の訴追
墮胎罪撤廃
- ・ 研究分野との連携強化
女性に対する暴力に関する専門調査会は、男女共同参画会議のもとに置かれた会議体であって、研究機関ではない。将来的には、DVや女性に対する暴力全般について、継続的に多面的な研究を行い、専門知を公共政策としてのDV対策に活かしていくことができる仕組みを検討していくことが必要なのではないか。

Ex. ANROWS: Australia's National Research Organization for Women's Safety

オーストラリアの政府系独立研究機関（政府組織の一部ではない）

自ら研究を行うほか、研究助成を実施

主たる財源は連邦および州政府からの補助金

年間予算規模は3億8千万円ほど

- ・ 特に、KTE(knowledge transfer and exchange)、またはknowledge translation と呼ばれる機能に注目すべき。